



# 104



号外 2011年5月25日

## みなさまへ

日本は大地震、大津波、原発事故という三重の苦難に直面し、被災地へは各方面から人材や資金が投入され、日を追うごとに復興が加速されています。

被災地へ最初に行った4月。がれきの中に、布団や食器など日常の生活に使う物が散乱していました。一瞬にして奪われた「普通の生活」を目の当りにし、自然の威力に屈せざるを得ない人間の非力を思い知りました。

二度目に宮城県、岩手県を訪れてみると、人々の手による作業が勢いよく進められており、道はがれきを除けて作られ、橋は水の引かない場所に架けられ、平地には、新しい電柱が立てられていました。被災地には、多くのボランティアが入り協力しています。仕事であれボランティアであれ働く人々が、まぶしく尊い存在でした。そこには利益など考えず、人の役に立ちたいという純粋な想いが集結して

いました。そして損得勘定抜きで活動する姿を見て、困難を克服する人間の豊かさや逞しさに胸が詰まりました。

私たちGAは、ボランティアとしてコミュニティの中で活動しています。報酬もないのによくやれますねという声も聞いてきました。“Dare to Care!”のモットーのとおり、見てみぬふりをしないでまちや人に関心を寄せる。他人に無関心ではない社会を目指し活動を続けています。今回、思いやりの溢れた社会の一面を見て、日本が大きく変化する兆しを見ました。

これから私たちは、死者1万5千人、行方不明者9000人(2011年5月13日)という最悪な事実を受け止め、失われなくてもよかった命の分まで一生懸命に生きること、そして、自分たちにできることを精いっぱい行動していきましょう。

被災地では赤いベレー帽を見た人たちから、「あなた方

のような人がいて安心です！」と声をかけられました。安全、安心のシンボルとして活動していることに自信と誇りを持ち活動に励んでいこうではありませんか！

謹んで犠牲になられた方にお悔やみ申し上げます。また被災された皆様に、お見舞い申し上げるとともに、復旧復興が進み一日でも早く安全で安心な生活に戻れますよう心から願っております。

2011年5月20日

小田啓二(おだけいじ)

## 被災地活動2011

- |     |  |
|-----|--|
| 第一回 | 4月2日 - 3日<br>仙台市・石巻市                                   |
| 第二回 | 4月13日 - 19日<br>仙台市・石巻市・女川町<br>南三陸町・気仙沼市・陸前高田市・大船渡市・山田町 |
| 第三回 | 5月4日 - 7日<br>石巻市・南三陸町・気仙沼市                             |
| 第四回 | 5月24日 - 25日<br>石巻市・南三陸町                                |



南三陸町災害対策本部



石巻警察署生活安全課の皆様と

義援金は、日本赤十字社にお渡し、支援金は、ご寄附として被災地支援に使わせていただきます。



南三陸海岸近くにて、保冷が効かなくなってしまった倉庫よりワカメ・コンブが木箱に入っているもの（およそ15キロ）を73箱トラックに積載。まずは瓦礫をどかして道の確保、150メートル程の急斜面な坂の上り下り、熱さから作業は大変なものでした。（渋谷支部BB）

私には家族がいて住む場所も食べる事もできます。そういう人たちが被災された方々の力になって、一秒一分でも忘れられる時間があればいいなあって思います。笑顔のもどる日まで続けていきたいです。（北九州支部スティッチ）

瓦礫の山、横たわるSL・巨大タンカー、いまだに建物に船や車が突き刺さり、漂う砂埃とヘドロの腐臭。現地に立ちその光景を眺めていると、何から手を付ければよいか途方に暮れてしまいそうでした。しかし、毎日自衛隊はガンガン瓦礫を片付けてくれるし、ボランティアの方もたくさん活動しています。地元の人達も、自宅を片付け、商店を開け、少しずつ生活を取り戻す努力をしています。

現地の方は私達ボランティアに、必ず感謝の言葉を口にされます。石巻のコンビニでコミュをとった女子中学生達は、自分達も学校で津波の被害に遭いゴムボートで救出されているのに、私達が南三陸町で活動していると言うと、「そちらの方が大変だ!」と心配し「ありがとうございます!」と言ってくれました。彼女達に逆に元気をもらいました。

石巻でお会いした支援者はご家族を津波で亡くされましたが、私達の存在が心強いと、小田代表はじめGAJの皆さんに心から感謝していただきました。「いつまでも泣いてられない」とおっしゃいます。「ただ、そろそろ震災疲れもあって住んでいるだけでやっとな」とも。

これからも国全体で継続的な支援が必要です。現地の方々が日常を取り戻すまで、被災地支援を続けなければなりません。そんな中、地元で詳しいメンバーや支援者、車両などのツールを持ち、警察機能を失った沿岸部をパトロールできるのは、まさにGAならではの活動でした。

あくまでも他所者であるボランティアが、地元の方といかに信頼関係を築くかも重要です。悩むより気持ちで行動にうつすのがボランティアだと思い出し、「自分にできること・やるべきこと」があるのだと改めて気づく機会となりました。

この経験を松戸支部の活動や私の仕事に活かしていきたいです。是非、機会がありましたら皆さんも被災地支援に参加してみてください。（松戸支部シャーク）

物資を送ってくださった方、活動支援金を送ってくださった方、義援金を送ってくださった方、皆様ありがとうございました！ 温かいお気持ちに心から感謝いたします！

現地に行きたくても行けない皆様の気持ちを携え、出向いてくださったメンバーに敬意を表します！ありがとうございました！

特定非営利活動法人  
日本ガーディアン・エンジェルス  
〒104-0033 東京都中央区新川 1-29-13  
Tel:03-3523-5300  
E-mail:info@guardianangels.or.jp  
www.guardianangels.or.jp

## 活動レポート

皆様へ 大変ごぶさたをしております。少ないですが物資の方をお送り致します。役に立つものかどうか何とも言えませんが、よろしければお使いください。まだまだ寒いときもありますので、お身体は大切にしてくださいませ。では。



(渋谷支部かすみ)  
3月27日

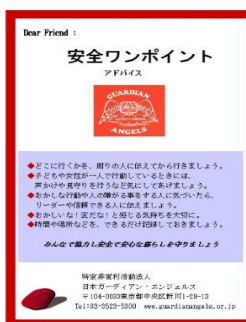
皆様ありがとうございました!

- ・小さな女の子が自衛隊員から貰ったアポロのお菓子ですごく喜んでいました。BBが持ってきていたポストンバックいっぱいのお菓子は喜ばれるアイテムであったと思います。(渋谷支部ウエスト)
- ・現場に行き、人から人へのネットワークが広がることの大きさを実感しました。支援物資に関しては生活必需品から次のステップのものが必要とされているように感じます。粉塵がひどく感染症などの拡大が懸念される。(渋谷支部B B)

## 収支報告

|    | 収入        |        | 支出      |                            |
|----|-----------|--------|---------|----------------------------|
|    | 寄附金       | 義援金    | 金額      | 内 訳                        |
| 3月 | 428,000   | 10,000 | 196,640 | 見舞金・仙台支部支援金・交通費等           |
| 4月 | 605,800   | 5,000  | 106,549 | 交通費・ガソリン携行缶他               |
| 5月 | 83,000    | 0      | 554,587 | 交通費(ロード・チーム3回分)<br>クリーニング他 |
| 合計 | 1,116,800 | 15,000 | 857,776 |                            |

※ご入金いただいた方には、用途の確認をしました。  
 ※見舞金として、仙台支部7名×1万円を拠出しました。  
 ※仙台支部活動資金として、10万円を拠出しました。  
 ※交通費は、車両の高速料金、ガソリン代、駐車場代が含まれます。  
 (2011年5月25日現在)



安全ワンポイント・カードを配布

Dare to Care!

Guardian Angels

私達が荷物を運ぶお手伝いをした所で、一人のおじいちゃんに会いました。そのおじいちゃんに二度目の東北行きでまたお会いすることが出来ました。「よく来てくれたね、ボランティアでまた来たの?ありがとうね」と私の手をとり握手をしてくれました。

私は、最初被災地の方と話をすることも出来ずにただ後ろで話を聞く事だけでした。その中で佐々木さん(おじいさん)との出会いは私にとって第一歩になりました。すごく嬉しかったです。また必ず来ることを約束してお別れをしました。

その後お店に買出しに行ったらおじいちゃんが無料でライターをくれました。「大切に使用させていただきます」と挨拶をした後店を出ました。すると背後からおじいちゃんが走って来て「コレ持っていきな」と売り物の商品を私達にくれました。「頑張ってください」と励まされました。私達が元気をもらい、頑張らなくちゃいけない、と改めて思いました。

最終日の5月7日、東京に帰ることと私の気持ちを伝えたいと思い会いに行きました。戻ることを伝え、また戻って来ること、私はおじいちゃんと初めてコミュニケーションをとってそこらにいるんな人に自分の想いを伝え会話をすることが出来るようになったこと、人と人がつながる大切さをおじいちゃんに教わったこと、感謝の気持ち、これからも続けて行くことを伝えました。

するとおじいちゃんが自分で作って配っているという新聞のコピーを私にくれました。それは現地の新聞で今の状況が書いてあるものです。「ありがとうございます」と受け取り、最後、挨拶をしました。その後車に戻りましたが、一緒に写真をとりたいと思い、「写真を一緒にとって頂けますか?」と言うと「うん、いいよ」と言って頂き、一緒にとって頂きました。そしてその場を離れました。

今後の活動の中でもっとたくさんの人とのコミュニケーションやお手伝い、防犯でのパトロールを継続して行きたいと思います。

(北九州支部スティッチ)

